

to Kumamoto

Kumamoto in Japan

世界の研究現場から学ぶ。

海外の研究機関と積極的に交流を図り、グローバルな研究の推進を行っている熊本大学グローバルCOEプログラム「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」では、今年度も海外若手研究者の招聘事業を実施。その一環として受け入れた、エジプトからの留学生4名に話を聞きました。



留学、そして学位取得を生かしてエジプトの医療技術向上を目指す

今回の経験を生かして、エジプトの医療環境を変えていきたい、というのは4人に共通する思いです。整った研究設備、一つの研究にしてもシステムイズされている日本の研究スタイルなど、ここで学んだことを持ち帰り、エジプトの環境も同じように近代化させることで、医者の技術向上につなげていきたいといいます。

今回は短い滞在だった3人も、オサマさんのように熊本大学へ進学し、もっと本格的に研究をしたいという思いが強くなってきたそうです。世界の中に、熊本大学グローバルCOEの研究現場は確かにありました。



ラボのメンバーはみんな親しみやすく、すぐに意気投合



熊本のシンボルでもある熊本城へ。エジプトのピラミッドにも負けない迫力!



ラボのみんなとパワースポットで有名な宮崎県の高千穂峡を訪れた



一人ひとりが使用できる実験器材も充実している

熊本大学グローバルCOEの研究環境はエジプトの医師にとって、とても刺激的です

設備や技術面だけでなく、優秀な人材が集まっているというのも、熊本大学グローバルCOEが留学先として選ばれる理由の一つ。「ここにはさまざまな分野から細胞系譜制御研究のスペシャリストが集まっているため、互いが刺激し合い、良い意味での“競争”が生まれやすい環境であることが、常に高い水準の研究を生み出すことにつながっているのだろう。エジプトにはない環境ですね」とモハメドさん。また、一つの研究を終えるたびに論文をまとめたりと、エジプトにはない研究の現場を、熊本大学グローバルCOEで体感しています。エジプトでは医師として活躍する彼らにとって、研究所内に動物舎を持ち、十分な動物実験の環境が整っていることや、初めて扱う実験機材に触れることは魅力だと話します。

日本で学位を取るとは世界で認められるということなんです

今回の招聘事業で熊本大学グローバルCOEが受け入れているのは、モハメドさん、アブドラさん、ヘシャムさんの3名の留学生。昨年度の招聘事業で訪れていたオサマさんは、今年度から大学院生として、熊本大学で学んでいます。

彼らは、「日本で学位を取るとは、研究者として世界から認められるということなんです」と口をそろえます。エジプトに比べ、日本の医学は進んでおり、エジプトで学ぶよりもはるかに大きなチャンスに恵まれているのだといいます。特に熊本大学グローバルCOEは、世界最先端の研究を行う機関。留学先に熊本大学を選んだ理由は、ここにありました。留学を通して世界水準の研究の現場に触れ、さらには研究者として進学し、学位取得を目指したいと考えています。



今年度から熊大G-COEで大学院生として学んでいるオサマさん



母国に戻ったら自分が教える立場となってエジプトの医療環境の向上につなげたい

Researchers

 <p>◀ヘシャムさん 短い留学期間ですがとてもいい経験ができています。家族も連れて、また熊本に来たいですね。</p>	 <p>◀アブドラさん 日本の食べ物でおいしかったものは、熊本名物のタイビーエンですね。寿司のワサビには驚きました。</p>
<p>▶オサマさん ラボのメンバーは、熊本の観光地にも連れて行ってくれます。熊本の緑豊かな自然はエジプトに似ていると思います。なんとなく落ち着くんですね。</p> 	<p>▶モハメドさん 空港で分からないことを尋ねるとゲートまで案内してくれたり、宿泊しているホテルから大学まで、丁寧に道案内してくれたり。親切な人にたくさん出会いました。</p> 